

## 和歌山県に適したトルコギキョウの育苗技術開発

### 1. はじめに

「トルコギキョウ」は冠婚葬祭に幅広く使われる切り花で、今では花色が豊富で日持ちが良くボリュームのある八重品種が中心になったことから、キク、カーネーション、バラ、ユリに次いで生産額が多い主要品目となっています。

和歌山県では暖地の特性を活かし、同じ株で年内と春以降に収穫する2度切り栽培と、供給量の少ない年内から春に1回収穫する栽培が行われています。年内にトルコギキョウを収穫するためには、7,8月に育苗し8月中に定植する必要があります。トルコギキョウでは、育苗期の高温により葉ばかりが大きくなり春まで開花しないロゼット化が問題となります。種子冷蔵、苗冷蔵、クーラー育苗、夜冷育苗などによりロゼット化を回避するための研究が広島県で行われてきました。しかし、和歌山県の気象状況（川辺）は広島県（東広島市）に比べ、年間平均最低気温（夜温）は約4℃も高く、広島県の育苗方法をそのまま導入してもロゼットになる場合があります。

また、トルコギキョウの定植本数は反当たり約40,000本と他の品目（スターチス約3,000本）に比べ非常に多くの苗が必要となります。自家育苗は種子冷蔵、夜間冷房、苗冷蔵を組み合わせで行い育苗経費は約15円/株です。種苗メーカーからの購入苗はクーラー室（25℃）で育苗されており約35円/株で、自家育苗と苗購入では、反当たり約80万円の差がでてきます。

そこで、和歌山県の気象状況に適したトルコギキョウの育苗技術を開発し、自家育苗による生産者の増収を目指し、育苗の試験を始めましたので紹介します。

### 2. 内容の紹介

トルコギキョウのロゼット化を引き起こす主たる要因は高温で、特に夜温が高いと発生が多いと言われています。本研究では、和歌山県においてロゼット化を引き起こす一番の原因を明確にするため、育苗条件（種子冷蔵の有無、夜間冷房の給水条件、苗冷蔵の有無およびクーラー育苗など）を組み合わせた育苗によるロゼット化への影響と、育苗条件の違いが開花に及ぼす影響について、現在、調査を行っています。

今後、さらに詳しく調査することで、育苗時のロゼット化回避技術の確立をめざします。

### 3. おわりに

トルコギキョウは需要が多く、特に冬期は品不足で高単価が狙える品目です。より和歌山県に適した育苗方法を開発し、育苗マニュアルを作る予定です。

（園芸部 花田裕美）

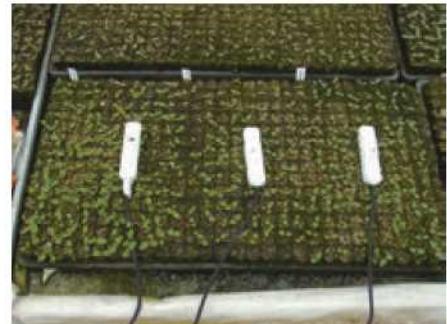


写真 育苗試験の様子